

学生と地域を幸せにする循環を目指してー墨田区・情報経営イノベーション専門職大学

情報経営イノベーション専門職大学（以下 iU）は、2020 年 4 月に東京都墨田区に開学した。墨田区のシンボル、東京スカイツリーからもほど近い。この周辺では新型コロナウイルス感染拡大前から新築マンションが次々と建設され、国内だけでなく海外からも観光客が集まり、街も賑わいを見せていた。

iU は、「就職率 0 %」というユニークなキャッチコピーを掲げ、在学中に全員が起業することを目標としている。

iU の運営主体である学校法人電子学園は、1951 年創立で 70 年に及ぶ歴史のある専門学校であり、ICT 業界に多くの人材を輩出してきた。そんな同校が満を持して開学したのが iU である。

実は墨田区は、今まで東京 23 区で唯一大学がない地域であり、大学誘致が自治体としても悲願であった。そこで自治体は地域で快適に暮らせることを目指し、「職・住・学・遊が調和したまちづくり」を計画した。長年にわたる大学誘致の結果、2020 年 4 月に iU が開学。2021 年 4 月には、千葉大学デザイン建築スクールが開設される。まさに iU は墨田区のまちづくりに希望の火を灯す開学となったのである。

今回は iU の事務局長である宮島徹雄氏に大学の特徴と今後の展望についてお話を伺った。今回はその模様をレポートする。



東京スカイツリーが見渡せる情報経営イノベーション専門職大学（墨田区）

600 時間以上の学外実習と多数の実務家教員を抱える

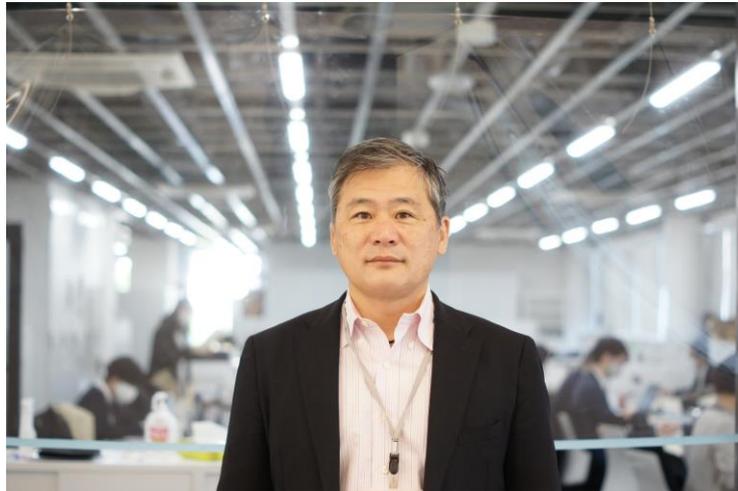
まず宮島氏に専門職大学とはどういうものなのかについて尋ねてみた。「専門職大学の一番の特徴は、通算 600 時間以上の学外実習があることです。授業の 1/3 は実習・実技で、理論と実践の両方を習得することができます。通常の大学とは異なり専門職大学では、理論に精通した研究者教員だけではなく、各業界の現場経験が豊富な実務家教員は 4 割以上配置する必要があります。また、専門職大学の授業は原則 40 人が定員で通常の大学のような広い講堂で授業することはあまりありません。教師と生徒の距離はかなり近く、親しみやすい関係を築けています。」と宮島氏。理論と実践を重視した実践的なプロフェッショナルな職業人を育てる大学と言えるだろう。



授業風景。教員と学生の距離が近いのも専門職大学の特色であろう。

筆者も iU の客員教授を拝命しているが、4 割どころか 8 割、約 300 名の実務家客員教員がいる。紹介が紹介を生むというケースが多く、あえて探さなくとも現在でも週にかなりの人数の紹介がある。iU の学長・中村伊知哉氏の方針で「応援団みたいな人がたくさんいた方がいい。様々な構想があるので、出来る限りたくさんの人に応援してもらおう」ということだそう。

宮島氏は「大事なのは iU のコンセプトを理解して、応援して頂ける人だということです。それこそ 10 代の海外の天才エンジニアから 80 代くらいの産業界の重鎮まで、バラエティに富んだ面々がいらっしやいます」と語る。



お話を伺った iU 事務局長 宮島 徹雄氏

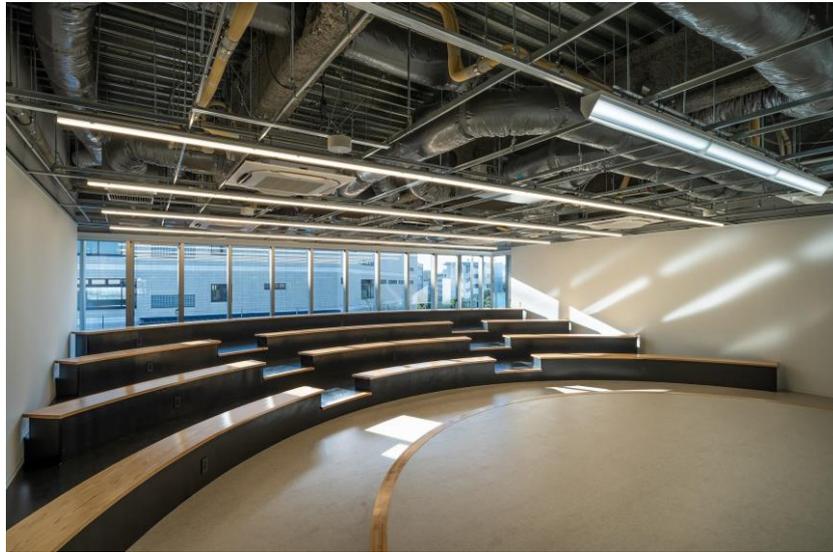
起業に繋がる授業「イノベーションプロジェクト」

次いで在學生について尋ねてみた。在校生の 7 割は高校新卒であるが、中には社会経験を受けてから入学した人もいる。珍しい話だが、親子で入学された学生が 2 組いるという。1 組目は、息子の進路先を決めるために父親と息子で説明会に行ったところ、父親が入学したくなり、息子も後を追うように入学を決めたケースである。2 組目は、母が看護師で、ICT の技術を医療現場に持ち込む勉強をしたいという希望があった。そこで一緒に子供も連れてきて、何回か見学に来ているうちに、双方が入学に至った。また父子入学のケースは、もともと父は大手企業の事業部長を経て、別の大手企業のグループ会社の取締役に着任していた。たまたま宮島氏の知人から、iU の話を聞いて、「気に入った、おもしろい！」となって入学したという。現在 60 代の彼だが、70 歳で起業することを目標にしている。

さて、この新型コロナウイルス感染が拡大している中、授業はどのように行われているのだろうか。

「週一回、水曜日と金曜日のどちらか登校するようになっており、あとはオンラインで授業を行っています。2021 年はもう少し対面授業を増やすよう授業を組む予定です。教室もハイブリッド仕様で、少し変えようかなと思っています」と宮島氏。

特徴的な授業としては、「イノベーションプロジェクト」という起業するための授業がある。4 年間に 6 回プレゼンテーションを行い、その中で、自分で考えたプロジェクトで起業したいのであればそれを iU で支援する。



イノベーションプロジェクトのプレゼンテーションルーム

「2020年8月にプレゼン発表会を実施しました。東京東信用金庫の中田清史理事長など実務家の方々を招き、グループごとにビジネスプランを発表しました。学生たちは自分達の考えたプロジェクトをしっかりとプレゼンして、起業したい熱量を伝えられていました。プレゼン内容に需要が見込める場合は、学生たちには大学のスペースを貸し出します。その時にお金も必要なので、i 株式会社（iU の起業支援のための会社。宮島氏が代表取締役）から出資もし、登記もこの大学で行います。光熱費や賃料は大学としては取りません。5年、10年の継続結果として幾ばくかは i 株式会社に戻ってくるでしょう。それを奨学金にして活用したいと思っています」と宮島氏は語る。実際に2020年11月には学生4名からなるプロジェクトが起業し、登記したという。大学自体がここまで起業を支援するケースは日本では稀であろう。

意欲と能力とビジネスアイデアを持って iU に入学して、日本人だけではなく海外の学生たちとも切磋琢磨して起業して成功する。その結果、恩返しではなく恩送りができる。そういう循環が理想だと言う。ここでいう恩返しとは、誰かから受けた恩に報いることであり、恩送りとは受けた恩を直接相手に返すのではなく、周りの誰かに送ることである。

「成功する起業は1つでもいい。ほとんどは失敗するだろうし、起業はそんな甘いものではないですよ」と学長の中村氏が語る。日本の社会は失敗に寛容であるとは言いがたい。アメリカでは失敗の回数が勲章のように言われるが、日本は失敗すればするほど、能力がないという烙印を押されることが多い。ところが中村学長は「失敗大学でもいいじゃないか。いっぱい失敗させろ」と言っている。この学長の姿勢が、学生を起業に向かわせるモチベーションになる

のではないだろうか。

地域から頼られ幸せな循環を作りたい

最後に今後の展望について尋ねてみた。まずは大学の定員増をしたいという。隣にもう一棟建てる予定で土地を借りている。出来る限り学生に寄り添って、教員も増やし、産学連携にももっと取り組みたいとのことである。

「もう一棟建てて、企業にも新規事業開発室として入居してもらいたいのです。そして墨田区のDXのお手伝いもしたいですね。地域から頼られる大学になりたい。僕は『墨田バレー構想』と言っていますが、人が集まってiUがあるから周囲の企業さんもデジタル化できるとか、東京東信用金庫さんと連携して事業化をするなど、iUがあるから町を活気づかせることができるというのが理想です。」と宮島氏は言う。

また周辺に空き家がたくさんあるので、住まいを地主が提供してリノベーションをし、学生が周りに住む。学生がたくさんいると、ベンチャー企業はその労働力を求めてLABOを出す。学生は授業が終わったら、そこでアルバイトをする。ご飯も町の食堂で食べる。このように地域で循環させて学生の住まいも食品もタダにできたら面白いと語る。

「能力はメチャクチャ高いけれど、生活費はないという学生がちゃんと暮らせる地域。ご飯も用意されているし、携帯代とか生活費がかさむものはベンチャー企業のインターンをして稼ぐ。それで家に帰って寝る。みんなと遊び、また大学へ行って勉強しながら、仕事もして、やがては起業に成功する。幸せな地域循環ですよ。」と宮島氏。

地域の Well-Being の先導役を iU が担うことが『墨田バレー構想』なのかもしれない。様々な可能性を秘めた新設の専門職大学の今後に大いに期待したい。

参考資料：

情報経営イノベーション専門職大学

<https://www.i-u.ac.jp/>

学校法人電子学園

<https://www.i-u.ac.jp/information/relation/history/>

就職率0%を目指す大学。世界でビジネス展開できる人材を育てるロジック

(d' s JOURNAL 採用で組織をデザインする)

https://www.dodadsj.com/content/201117_iu/

情報経営イノベーション専門職大学が開学しました (墨田区公式サイト)

https://www.city.sumida.lg.jp/kuseijoho/sumida_kihon/daigakuyuuti/yuuti/iu-kaigaku.html

文 奥山 睦